

凡例

本事典の構成

- (1) 本文
- (i) 日本人名
- (ii) 海外人名
- (iii) 新聞・雑誌
- (iv) 叢書・シリーズ
- (v) 団体
- (vi) 児童文学用語・概念
- (2) 世界児童文学史
- (3) 児童文学研究文献
- (4) 児童文学年表
- (5) 索引
- (i) 日本人名
- (ii) 海外人名
- (iii) 書名(日本)
- (iv) 書名(海外)
- (v) 雑誌名

配列

(1) 見出し語(ゴシックII太字)の配列は五〇音順

による。

- (2) 長音、中黒(・)、双柱(II)の記号は無視して読んだ。
- (3) 濁音、半濁音も無視したが、同列に並ぶ場合は、清音、濁音、半濁音の順とした。
- (4) 人名の場合、同姓が並ぶ時には、次の名の部分で配列を定めた。
- (5) 同音の雑誌、叢書、シリーズについては、創刊年の早いものから配列した。
- (6) 事項項目で、用語や概念の解説項目と、雑誌名とが同音である場合は、概念、雑誌の順に配列した。
- (7) 同音見出しで、日本、海外とそれぞれ別に立項して、解説してある場合は、海外、日本の順で配列した。

見出し

- (1) 日本人名の場合、姓・名ともに太字で示し、その下に読みを入れた。
- (2) 中国・朝鮮人名項目の場合も、日本人と同様、姓・名ともに太字で示したが、読みは、本文では原音読みで入れた。ただし、読者の便をはかり、日本音読みの空見出しを立て、原音読みを

ひけるようにした。

(3) (i) その他の海外人名の見出しについては、原則として、姓(ファミリー・ネーム)部分を太字で示し、名を細字(明朝体)で示した。

(ii) 海外の人名については、日本で一般的によく用いられる慣例で示した。したがって、名を頭文字で示す場合、また、ミドルネームを省いて示した場合もある。

例Ⅱルイス C・S

(iii) ハンガリー人名については、日本人名の場合と同様に、姓・名の順とし、姓を太字で示した。

(iv) ロシア・ソビエト人名については、父称は、ロシア語の頭文字で示した。(↓「海外人名原綴」参照)

海外人名原綴

(1) 海外人名については、ミドルネームなど、簡略した方がよいと判断される場合は、頭文字を入れるか、または省いた場合もある。

(2) ロシア・ソビエト人名については、父称は、人名原綴部分に、ロシア語で略さず入れた。

(3) 朝鮮人名項目については、見出し語・原音読み

のあとに、ハングル文字で示した。

生歿年

(1) 日本人名の場合は、読みのもとに西暦で、生年、歿年を示した。そのあとにカッコ()内に、和暦を対照して入れた。その場合、明治、大正、昭和の元号は、略して表示した。

例Ⅱ 明治30年↓明30、大正12↓大12、昭和29年↓昭29

しかし、明治以前の年号については、省略せずに示した。

(2) 日本人名の場合、生年、歿年が不明の場合、またはいずれか一方が不明の場合に、西暦部分は、生年不詳、歿年不詳とし、()内の和暦部分は「？」を用いた。また不明確な場合は「頃」を用いた。

(3) 海外人名の生歿年については、名のもとに西暦で示した。生年、歿年が正確にわからない場合、または不明の場合は、「？」または「頃」を用いた。

国名

海外人名の場合、項目の解説の初めにできるかぎり国名を示したが、国籍と活動した国がちが

う場合などは、本文中で具体的にそのことを記述するか、あるいは活動国を中心に述べてある場合もある。

作品について

- (1) (i) 本文中の書名、作品名のあつかいについては、全集名、叢書・シリーズ名、単行本の書名、雑誌や新聞に発表されたが単行本になっていない作品名、絵本、童謡・詩などの作品名についても、すべて二重カギ(『 』)で示した。
 - (ii) 劇作品、漫画、映画、アニメーションなどの作品名についても『 』で示した。
 - (iii) 絵画の作品名は一重カギ(「 」)で示した。
 - (iv) 新聞・雑誌名は「 」で示した。
- (2) 日本の作品の発行年について
- (i) 単行本は、原則として初版の発行年を入れた。
 - (ii) 雑誌発表作品についても、原則として掲載された年を入れた。
 - (iii) 新聞掲載作品については、原則として、掲載年月日を入れた。
 - (iv) 海外作品でも、日本で翻訳されたものを指す場合は、翻訳書の出版年を入れた。

(3) 海外の作品の発行年について

- (i) 本文中の海外作品は、日本で翻訳のある作品については、その翻訳名(数多くの翻訳があり、その訳題も多くあるものについては、いちばん代表的なタイトル)を入れ、原書の、初版発行年を『 』あとの()中に入れた。

(ii) 翻訳のない作品については、『 』中に、最初にイタリック体で原題原綴を、次にその日本語訳名を(なるべく原題の内容にそくした訳で)入れ、そののちに、原書の、初版発行年を()中に入れた。

(iii) 中国の翻訳のない作品については、『 』内に原題を入れ、その横にふりがなで、日本語訳を入れた。

例Ⅱ 『たがつかてい 兩個家庭』

(iv) 朝鮮の作品で翻訳のないものについては、『 』内に日本語訳を入れ、原題はその横にふりがなとして、カタカナ表記で入れた。

例Ⅲ 『バゲテソニーニョネ 海から少年へ』

(v) 新聞・雑誌名は、適宜、原題の日本語訳あるいは、原綴音のカタカナ表記により示した。

(4) 年代表記の方法は、日本、海外とも、本文中は

原則として西暦で示し、初出のみ四ケタで示すが、以後は、前出と同じ世紀の場合には、下二ケタで示す。世紀が変わる場合は、あらためて、四ケタからはじめる。

また、(一)内の作品の発行年も、右の表記法にしたがう。

(5)本文中、年代に和暦を併記した方がわかりやすい場合は、西暦のあとの(一)内に和暦を入れた。その場合、「生歿年(1)」と同様に、明治、大正、昭和は、略して、「明」「大」「昭」とし、それ以外の年号は、略さないで入れた。

代表作品解説について

(1)主要な作家の代表作品の解説を、項目解説の後に入れた。

(2)「」内に代表作品名、あるいは作品集名を入れたのち本文中に作品のジャンル、初出年代、単行本出版年代などのデータを示し、次に梗概、内容説明を入れた。また、その後に、その影響、歴史的位置づけなどを記述した場合もある。

参考文献について

主要な項目の解説の後に、【参考文献】として、利用価値の高い文献を、原則として単行本から

挙げた。しかし、必要な場合には、雑誌、叢書・シリーズ中の論文を挙げた場合もある。また、海外で出版された参考文献については、翻訳のあるもののみを対象として、その翻訳書名で採用した。

記号について

*印は、本事典に項目として立項、解説してあるものを示す。